

No.172

公民館だより

令和3年7月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

読書環境づくり

由良地区公民館長 千坂 幸雄

京都府教育委員会は社会教育の中で子どもへの支援充実として家庭・学校・地域が連携・協働した読書活動の充実を具体的対応の一つにしています。

栗田学院学校運営協議会において、学校側から「児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、支持されたことを素直に取り組みようとする。しかし、主体的に物事を考え、積極的に挑戦していこうとする意欲には課題が見られる。そこで、今年度は学院の研究テーマを『主体性、挑戦意欲』に設定した。」と説明がありました。皆様は家庭や地域の中で子どもたちをど

のように見えていますか。学校運営協議会としてはこのテーマに協力していくことを確認しています。

その一つの取り組みとして読書活動の充実があります。読書をするには主体的な行動力が必要です。

読書が教育にとって大切なこととはわかってはいますが、子どもたちが読書好きになって積極的に読書にいきよめるようになるためには読書の楽しさや読書を通して自分の知りたいことが学べたなどの体験が必要です。人から読書をしなさいと押し付けられては逆に読書嫌いになります。

そこで、子どもたちが、本を手にとることができる環境づくりがあるのではないのでしょうか。学校では図書委員を中心に本の貸し出しや中学生が小学生に、小学生が幼稚園児に読み聞かせをするなど、いろいろな活動をしています。

地域や家庭ではどんな読書活動ができるでしょうか。

私は宮津市立図書館がミップルの3階に移ってから図書館を良く活用するようになりました。本を図書館で読むというよりも本を借りて家で読みます。それまでは書店で本を購入していましたが、購入する本が減ったおかげで家計も助かっています。

由良地区公民館に図書部があったことを知っていましたので今までの公民館だよりで調べてみました。

1964年(昭和39年)には由良地区公民館に図書室があり、図書部の予算が23,900円、毎週金曜日の午後8時から9時まで本の貸し出しをしていました。

貸し出しの本は

- ・由良地区公民館の本
- ・府立図書館宮津分館の本
- ・宮津市立図書館巡回本

1972年(昭和47年)四方寿朗館長は公民館だよりにこのようなことを記しておられます。「図書部と教養部を合併して文化部とした。図書の購入は続けている。数百冊の立派な本があくびをしている。」と

由良地区公民館には古くなった本が眠っていましたので、4年前の文化祭において1冊10円で皆様にお分けしました。残った本はもったいないとは思いつつ資源回収に出しました。

貴重な本は残しています。

将来、また、由良地区のどこかに図書室ができて、気軽に本が読めたり、貸し出しができたりにできるようになればと思います。読書活動のご意見を聞かせてください。

令和3年度の役員

由良地区公民館運営審議会委員 (順不同・敬称略)

団体名	氏名	団体名	氏名
自治連合会 会長	藤本 長壽	栗田中学校PTA 副会長	岡本 清美
脇自治会 会長	濱本 喜彦	栗田小学校PTA 会長	松林 威寿
宮本自治会 会長	森脇 誠	由良松寿会 会長	山田 耕助
浜野路自治会 会長	新宮 涼輔	由良観光組合 組合長	田中 昭彦
港自治会 会長	酒田 彰一	由良実業界 会長	岡本 康一
下石浦自治会 会長	新宮 鶴雄	由良子供会連絡協議会 会長	森 雄祐
上石浦自治会 会長	岸田 格	由良地区公民館 館長	千坂 幸雄
前公民館長	磯田 充亮	由良地区公民館 主事	山下 まさ代
人権擁護委員	大森 日向子		

由良地区公民館役員 (順不同・敬称略)

公民館長 千坂 幸雄 主事 山下まさ代

地区	分館長	文化部	体育部	備考
脇	岡本 康一	濱本 喜彦 岡本 重幸	野津 雄大 實川 紀子 松本 純也	
宮本	川端 利宏	山本 隆教 田中 康博	中西 一成 岸田 秀章 牛田 洋美	
浜野路	◎中西 泰之	◎前田 敏哉 山口 恭子 中西 保	◎吉成 博一 ○玉垣 光紹 吉田 有紀 森田美砂子	講師
港	○中西 達也	○山下 剛敏 川崎 尚子	山田 崇 小室 和子	
下石浦	山下 昇	蒲原 順一	野村 馨 野村 智華	
上石浦	山下 正貴	岸田八重子	野村 雄治 安田 裕美	
注 ◎印…分館長は代表 各部は部長 ○印…分館長は副代表 各部は副部長				

令和3年度の事業計画

文化部

期 日	行 事 内 容
11月7日(日)	由良地区文化祭(会場:はまの子体育館)
年3回(7月・11月・3月)	公民館だより発行

体育部

期 日	行 事 内 容
5月23日(日) 9:00	グラウンドゴルフ大会(個人戦) 中止
8月8日(日) 8:00	四部対抗ソフトボール大会(自治連合会共催)
9月26日(日) 8:30	由良地区運動会(午前中)(自治連合会共催)
10月23日(土) 午前	グラウンドゴルフ大会(団体戦)

健康広場(ウォーキングを中心に)

期 日	行 事 内 容
5月9日(日) 9:00	由良地区内北前船ウォーキング(金毘羅神社、資料館等) 中止
11月14日(日) 9:00	もみじ公園ウォーキング
11月21日(日) 8:30	七曲八峠ウォーキング
1月~3月	卓球教室(土曜日 連続講座)

由良ヶ岳登山道整備作業 4月20日(火) 公民館、自治連、観光組合

グラウンド除草作業 9月 5日(日) 17:00~

行事報告

主事 山下まさ代

由良ヶ岳登山道整備作業

4月20日(火) 実施

自治連、観光組合の方々13名にお世話になり実施することが出来ました。今年は高枝用チェンソーで枝を払い、見晴らしもよくなりました。お世話になりました。



作業の様子



60代、70代の私たちが小学生だった頃からあった由良小学校の「はまの子」文集は第59号(平成24年3月発行)をもって終了されたようです。1年後に小学校が閉校となりました。60年近く続いたこの文集を読み返すと、第39号にはこんな作文がありました。

苦勞した由良ヶ岳登山

6年生

「パン パン パン」
と、急にあられが降ってききました。みんな耳に当たるとか、背中に入るとか、いろいろと言っていました。そして、急いでタオルを巻き付けていました。

(中略)

頂上についたら、雨が降ってききました。お弁当は下で食べることになりました。一年生のM君が泣きました。泣いても当たり前です。一年生だから。私も怖かったです。四年生の人も泣いていました。

「こわいよ！つるつ。ドツッン。」とこけている人がたくさんいました。わたしはEちゃんをYちゃん、Aちゃんとみていました。木をつかみながら言っていました。

「だいじょうぶか。こつちきて。この木つかみな。がんばって。」と言っていました。私も泣いている人たち以上にこわくて、泣きまくりたいくらいでした。

(中略)

K先生の後を、ゆつくりT君と行きました。来た道は、水が流れとても危険でした。でも、この場所から下りなければならぬのです。すぎ林の中を歩き、道でない所を切り開いていきました。いろいろな物にぶつかりました。T君も私の言うことを聞いてくれました。ほかの六年生も小さい子を見ていました。六年生の人もその他の人も泣きかかったと思います。みんないっしょようけんめいでした。体操服もくつ下も、びちょびちょ。学校についたら、みんな、走り

出しました。

「やたっあ。学校に着いたあ！」

(後略)

毎年実施されていた小学校の由良ヶ岳登山ですが、非常にに残ったようで、何人かの児童がこの日のことを書いています。低学年を一生懸命に守る高学年の姿が見えるようです。いつもは悠々と見守ってくれている由良ヶ岳ですが、時として私たちに試練を与えてくれます。由良ヶ岳は児童たちにこの体験をおし



東峰からのながめ 由良地区が一望



西峰からのながめ 栗田湾が見える

て、自然の美しさだけでなく、厳しさ、やさしさ、強さ、思いやり、協力、忍耐などを教えてくれたようです。

例年実施している由良ヶ岳登山は実施できませんでしたが、家族やお友達と登ってみてください。素晴らしい眺めです。

令和2年度 由良地区公民館 決算報告書
一般会計（自治会協力金）

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
繰越金	230,276	230,276	0	前年度より
公民館費	511,200	495,160	△ 16,040	120円×12月×344戸（振込手数料200円控除）
各種補助金	0	0	0	
雑収入	524	4	△ 520	預金利息
合計	742,000	725,440	△ 16,560	

支出の部

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会議費	35,000	24,061	△ 10,939	お茶 役員用ボールペン等
事務費	15,000	9,806	△ 5,194	メモリー、キーフォルダー、フォトアルバム
旅費	70,000	27,343	△ 42,657	館長、主事旅費
通信費	2,000	1,440	△ 560	公民館だより郵送料
文化部費	60,000	0	△ 60,000	
体育部費	100,000	4,998	△ 95,002	柴桜苗
助成費	80,000	54,000	△ 26,000	10団体活動助成費
渉外費	45,000	4,860	△ 40,140	保護観察協会会費 グラウンド整地謝礼
慶弔費	15,000	0	△ 15,000	
備品費	100,000	54,182	△ 45,818	生垣刈込バリカン、懐中電灯、石油ストーブ、PCソフト読取革命
子供活動費	20,000	0	△ 20,000	
消耗品費	10,000	3,620	△ 6,380	ゴミ袋、電池、除菌スプレー、しめ縄
施設管理費	40,000	17,530	△ 22,470	チップソー及び研磨 公民館管理代
予備費	150,000	38,205	△ 111,795	額取付費、CDダビング料
合計	742,000	240,045	△ 501,955	

差引残高 485,395円 は次年度に繰越します。

令和3年3月31日

由良地区公民館 館長 千坂 幸雄 ㊞

会計監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和3年4月7日

由良自治連合会 会長 藤本 長壽 ㊞

由良自治連合会 会計 大森 義彦 ㊞

昨年度は新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた事業がほとんど実施できず、予算も予定通り執行することが出来ませんでした。

令和3年度 由良地区公民館予算書
一般会計(自治会協力金)

自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	2年度予算額	3年度予算額	増減額	備 考
1 繰越金	230,276	485,395	255,119	
2 公民館費	511,200	506,880	△ 4,320	120円×352戸×12月
3 各種補助金	0	0	0	
4 雑収入	524	5	△ 519	貯金利子他
合 計	742,000	992,280	250,280	

支出の部

科 目	2年度予算額	3年度予算額	増減額	備 考
1 会議費	35,000	35,000	0	お茶、役員用ボールペン他
2 事務費	15,000	15,000	0	プリンターインク、ファイル他
3 旅費	70,000	70,000	0	館長、主事
4 通信費	2,000	2,000	0	公民館だより郵送料他
5 文化部費	60,000	100,000	40,000	文化祭用品
6 体育部費	100,000	150,000	50,000	運動会、球技大会他
7 助成費	80,000	80,000	0	各活動クラブへ
8 渉外費	45,000	45,000	0	宮津市公民館、松寿会、敬老会他
9 慶弔費	15,000	15,000	0	
10 備品費	100,000	270,000	170,000	屋外掲示板等
11 子供活動費	20,000	10,000	△ 10,000	
12 消耗品費	10,000	10,000	0	乾電池等
13 施設管理費	40,000	40,000	0	公民館等施設管理
14 予備費	150,000	150,280	280	
合 計	742,000	992,280	250,280	

令和3年4月24日

由良地区公民館
館長 千坂 幸雄

令和3年度予算書の特徴点

- ①文化祭をより盛り上げるため増額
- ②体育祭実施年度であるため増額
- ③現在活用されていない幼稚園横の掲示板を新調し、啓発に活用

今年も栗田学院はみんなでつながります

栗田小学校 教頭 香山 美知代

今年度の四月より、栗田小学校に着任し、教頭をさせていただいております香山美知代です。

日頃より、地域の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解、ご支援を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

栗田小学校の子ども達の第一印象は、何と言っても「素直」です。何事も素直な心で真つすぐに取り組む子ども達に、いつもエネルギーをもらっています。また、海の見える自然豊かな環境で、のびのびと学習できることは、素敵だと感じています。保護者や地域の皆様方には、「大変温かく見守っていただいております、学校に対してとても協力的で理解が深くありがたい」と思っています。

*****自己紹介*****

- ・イチゴとみかん、ピアノを弾くのが好きです。
- ・毎晩、娘に読み聞かせを頑張っています。
- ・「由良」は楽しい所と思っただけで、幼い頃みかん狩りや釣りに連れて来てもらっていたからです。



理科のジョイント授業より
中学校の先生と一緒に実験を行っています!



1年生歓迎会より
高学年が低学年に優しく関わってくれます!お姉さんありがとう。

今年度も、栗田学院ジョイント授業(中学校から小学校への乗り入れ)が始まっています。高学年の算数・体育、理科・社会科などで、スムーズな小中接続、中学校教師の専門性を生かした指導による学力向上を目指しており、子ども達は、中学校の先生と楽しく学んでいます。

五月六日には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため限られた時間でしたが、第一回栗田学院学校運営協議会が行われました。コロナ禍の中でも、できることはない

授業の様子より
話をしっかり聞いて学習する子ども達です!



だろうかと前向きなご意見が次々と出され、皆様の熱い思いを肌で感じ取ることができました。子ども達を取り巻く環境が大きく変化する中、学校の現状や目指す姿などを共有できる学校運営協議会は大変心強い存在です。私も栗田学院の一員として皆様と一緒に精一杯取り組みたいと思います。どうぞ今年も「栗田学院」をよろしく願います。

ご挨拶

栗田小学校 令和3年度PTA会長 松林 威 寿

本年度、栗田小学校PTA会長を務めさせていただきます松林威寿です。

由良地区の皆様には、日頃より栗田小学校PTA活動にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

今年度は、由良地区より3名、栗田地区より9名の合計12名の新一年生を迎え、令和3年度がスタートしました。入学式は時間短縮を行いながらも、新一年生や親御様にも思い出に残る形を出来る限りかなえることが出来たと思いますが、コロナウイルスの影響により、すでに当たり前のようになつてしまいました児童のマスク姿での登下校など、学校活動も様々な面で制限を強いられた学校生活となっています。

また、緊急事態宣言の発出

により、5月に行う予定でした運動会は9月に延期を決定しました。子供たちは、6年生を中心に応援合戦などの取り組みを楽しみにしていましたが、PTAとしてこのような決断を学校と共に決めざるをえなかったことは、非常に残念であります。延期した9月には、近隣PTAの方々の意見や取り組みなどを参考にし、宮津市PTA協議会、与謝地方PTA連絡協議会で意見交換を行いながら、安全に、そして何よりも子供たちのために準備を進めていきたいと考えています。

そのような中、教職員の皆様には子供たちに感染が広がったり、また学校生活の中でクラスターが発生しないよう、これまで以上に子供たちの生活に配慮いただいているおかげで、児童は元気に、そして

集中して授業が行える環境づくりを行っていただいておりますことを感謝しますとともに、由良地区の皆様にご報告させていただきます。

栗田小学校令和3年度PTAの活動として、スローガンを「見守り、褒めて、楽しんで、育もう無限の可能性」とさせていただきました。昨年よりコロナウイルスの流行によってステイホームでの親子の時間が増えている中、家庭生活において、親として子供の成長を見守り、子供の興味があることに親としても関心を持ち、良い行いは思いきり褒め、また子供が学び、成長する過程から親も共に学び成長する喜びを感じて欲しいと願いを込めています。

また、親として、無限の可能性がある子供たちが成長し可能性を伸ばすための機会をつくること、先生と共に子供たちの教育環境をより良いものにする活動を活動方針として、1年間取り組んでいきた

いと思っています。

今後の活動としては、民生委員の皆様や見守り隊の皆様にもお世話になっていいる登下校時の「笑顔であいさつ運動」や地区懇談会、校庭除草作業、PTA文化会など、出来る限り例年通りの活動を行い、子供たちのためだけでなく、由良地区の皆様とも意見交換の場をいただきながら、子供たちのために、そして未来の由良地区のためになる活動を進めていきたいと思えます。

最後になってしまいましたですが、いつも子供たちをあたたく見守っていただいております地域の皆様、駐在さん、様々な活動に積極的にご参加いただいております地域の役員の皆様には、感謝申し上げます。

至らない点があるかと思いますが、皆様のご指導、ご理解をいただき、活動を進めさせていただきますと思えます。よろしくお願いいたします。

ご挨拶

栗田中学校PTA 副会長 岡本清美

由良地区の皆様には、日頃より栗田中学校PTA活動にご理解、ご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

本年度、PTA副会長を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが一杯取り組んで参りたいと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA活動が中止や延期となっております。現在延期となりました資源回収につきましては、夏頃予定で進めております。実施日が決まりましたら、ご案内させていただきますのでご協力よろしくお願い致します。

今年度栗田中学校は17名の新入生を迎え、全校生徒52名そのうち由良の生徒は三年生7名、二年生1名、一年生4名の12名でスタートしました。

5月に予定し、楽しみにしていた修学旅行は6月に延期、9月に再延期となり、部活動においても練習時間が短縮、試合も中止と、とても悔しく不安な時期が続いております。

このようなコロナ過でも対面での授業、友達との交流、部活動などといった今まで当り前であった日常をありがたく感じ「感謝の気持ち」が募った事と思います。この「感謝の気持ち」を持つこと、伝えることの大切さを改めて考えさせてくれるいい機会だと思います。

日頃から感謝の気持ちを持つて過ごしていれば様々な状況でも前向きに考えられ、不満や自己中心的な考えが薄れていくのではないのでしょうか。いつも口やかましく言う人に対して「何度も言うのは疲れるのに自分のことを想って言

ってくる」と考えると、「よし頑張ろう」と切り替える事が出来ます。時には、自分に厳しく接する人もいると思います。その辛かった経験が自分を作っている一部であると思うと、辛かった時間や嫌われ役をしていた人への認識が、感謝するに値する人であることに気づき、自分を成長させるきっかけになることと思います。私自身も「感謝の気持ち」を忘れずに精進して参りたいと思います。

学校では様々な制約のある中、子供達の学校生活を充実させるため、少しでも通常に近づける形で、日々尽力いただいている先生方がいます。

地域の方々には資源回収や体育後援会賛助会員としてご支援頂いているお陰で、部活動などに励むことが出来ていきます。私たちが今日あるのは、この様な周囲の人々の支援があるからこそだと思います。心より感謝申し上げます。

さて、本年度のPTA活動

方針は次の通りです。

(1) 学校・地域・家庭が一つとなり、生徒の健全育成に努める。

(2) 家族とのかかわりを大切にし、子ども達の豊かな心を育む。

(3) コロナ過でもできる活動を考え、会員相互の親睦を図る。

自粛生活が続く中、家で過ごす時間が増えることで家族との触れ合いを大切にし、今以上に強固な絆が出来ればと願います。

子供達にとって大切な学校生活が、安心、安全に過ごせるようPTA活動を通じて支えていきたいと思えます。

最後に、由良地区の皆様には今後とも、生徒達を暖かく見守っていただきますようお願い致します。

就任のご挨拶

由良子供会連絡協議会 会長 森 雄 祐

由良ヶ岳から吹き下ろす風に、夏の気配を感じる頃となりました。

由良地区の皆様には、日頃より由良子供会連絡協議会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

この度、由良子供会連絡協議会の会長を務めさせていただくことになりました。由良地区に移り住み今年で十一年となり、親子共々、地域の皆様のご支援ご協力のおかげで楽しく過ごしております。改めて心から感謝申し上げますとともに、会員及び地域の皆様からのご支援を賜りながら、微力ではございますが、地域の皆様の力になれる様、精一杯努めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

普段なら、ふるさと祭り等、

各種行事の準備で慌ただしくも楽しい時期ですが、皆様ご存知のとおり、昨年より流行している新型コロナウイルス感染症が終息の兆しを見せず、各種行事が取り止めとなっております。

子供達においては、昨年、休校処置により学校に行けない時期もありましたが、今年は、マスク着用・手指消毒が生活の一部となり、感染症対策に時間を割きつつも元気に登校出来ております。しかしながら、京都府下での感染者は依然としてゼロにはならず、子供達も不安な日々での生活が続いています。

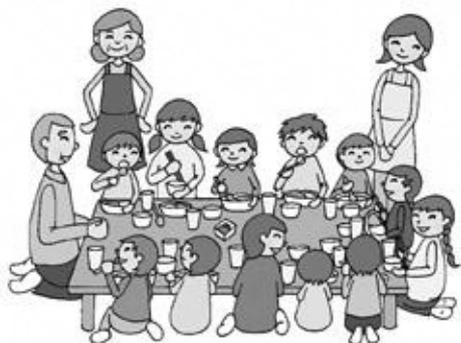
本協議会の事業についても同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各地区合同での子供会の事業開催も困難を極め、各地区での子供会行事についても延期や中止

をせざるをえない状況となりました。昨年度は、そういった状況の中でも、夏休み期間中のラジオ体操は感染症予防対策を講じて、実施していただきましたが、本年度についても実施出来る様、各地区の子供会会長が中心となって計画していこうと考えております。

気温や湿度が高く、熱中症リスクも上昇する時期ですが、屋外活動での過度な感染症対策により、健康を害する事のない様、ソーシャルディスタンスを基本として、各種行事に取り組んでいきます。

現在、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンが開発され、接種が進んでおります。しかしながら、対象者は十二歳以上であり、小学生以下については、接種の見通しが立たない状況です。今後、ワクチン接種が進み、行事を実施出来る様になったとしても、ワクチン接種者が保菌しない訳ではない為、未接種者と同様、これまでと変わる事

のない感染症対策を念頭に取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、この困難な状況を地域の皆様と共に様々な変化に対応しながら、乗り越えていきたいと思っております。今後もコロナ禍での子供会合同での事業実施は困難な状況ではございますが、予防対策を講じて各地区でひとつでも多く事業実施に取り組めればと願っております。今後とも地域の皆様の本協議会の活動への引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



由良が光り輝いていた時代(15)

由良の歴史をさぐる会 加藤正一

公民館だより(第一七一号)には柚木学著の諸国御客船帳の石州(島根県)浜田の清水家の客船帳から由良の部分を引用し、問屋別船頭を含め分類した。

今回は東北、越後国(新潟県)「出雲崎湊」新潟県出雲崎に残された客船帳を出雲崎町史海運資料(二)(三)より下記表は由良の部分を抜き出し分類したものである。

出雲崎湊には、寛保元年(一七四一)の頃、廻船問屋が七件あった。近世後期には諸国取引問屋として六件あったことが知られている。そのうちの

一軒熊木屋家に、「御客上下帳」と銘記された「入船帳」文化五年正月(一八〇八)〜明治十九年(一八八六)が残されている。嘉永七年から明治二十年(一八八七)までに二〇七六艘の寄港が記録され

ている。一方廻船問屋「泊屋」の佐野家の「御客船帳」は弘化三年(一八四六)〜明治二十年(一八八七)まで廻船数が記載されている。

明治二十年の記載終了は、同町同業の熊木屋が経営廃止した年であり、泊屋の場合も廻船問屋廃業のためと考えられる。(出雲崎町史)

出雲崎湊は由良の船主、船頭にとっては拠点とする港ではないようで寄港船主は六家である。石州浜田湊と比べ入港数が少ない。

しかし浜田湊清水家客船帳に記載されている船主、船頭と同じ名前が記載されている。

出雲崎客船帳

屋号	元号	西暦	記載者	船頭	船主	船名・帆反数
新屋	嘉永7年 7/20	1854	八郎右衛門			
	安政2年 6/10	1856	平左衛門			
鍵屋	安政6年 6/20	1859	小左衛門			日吉丸
米屋(熊)	文政11年 3/9	1828	長左衛門			磯部丸
	5/8		長左衛門			
(熊)	天保4年 2/22	1833	助五郎			永寿丸
	嘉永4年 6/25	1851	六兵衛			
	嘉永5年 8/3	1852	惣太郎	由良左衛門		伊勢丸 18反
	嘉永7年 5/3	1854	與三吉			宝壽丸 18反
	安政2年 5/12	1855	吉兵衛			栄福丸 17反
	3年 9/5	1856	吉兵衛			空船
	6年 8/16	1859	九郎衛門			永福丸
	7年 3/28	1860	皆蔵			永寿丸 14反
	文久3年 3/13	1863	吉兵衛			栄福丸 22反

	文久4年 6/29	1864	石助	19反
	元治3月 朔日	1865	皆蔵	永寿丸 19反
	元治2年 8/1		皆蔵	同上
	明治3年 6/22	1870	清蔵	
	4年 4/3	1871	藤太郎	稻荷丸 13反
津の国屋	嘉永2年 6/14	1849	平助	
浜崎屋	嘉永4年 6/17	1851	清兵衛	
小室屋	嘉永5年 3/6	1853	文蔵	
	嘉永6年 3/27	1854	文蔵	

(熊)：熊木屋

(無記入)：泊屋

しかしながら出雲崎湊に寄港している船主、船頭の中に浜田湊に記載されていない船主小室文蔵家、船頭七名が記載されている。
 浜田家、出雲崎客船帳に記載されている廻船を由良にある船絵馬、祈禱札で合致するものが有るか確認する。

積載石数と帆の反数 (舞鶴市史)

12反	150石	20反	700石
13反		21反	800石
15反	270石	22反	900石
16反	300石	23反	1000石
17反		24反	1200石
18反	400石	25反	1400石
19反	600石		

一般的に23反で千石船となる。

公民館だより前号(第一七一号)と比較してもらえばわかるように、石州浜田(島根県)の清水家客船帳に記載されている由良の船の出雲崎湊寄港数は少ない。

船絵馬と寄港した船名は同じものがあるが、年代が合致する物は無い。
 ・祈禱札の関係
 江戸時代・安政七年二月から慶應三年まで十四点、明治二〇年まで六点到該当するものは無い。

由良の船絵馬 (詳細は後日)

時代	元号	年代
江戸	安政	1854～1859
	文久 3点	1880～1863
	元治 3点	1864
	慶応 11点	1864～1867
明治	21点	
不明	5点	

出雲崎客船帳、浜田清水家客船帳の入港数を下記に年代別地区別表を記す。

出雲崎客船帳 (熊本屋 泊屋)

	入港数	1744～1800	1801～1867	1868～
間人	60		41	19
岩滝	67		61	6
加悦	2		—	2
宮津	34		10	14
由良	22		20	2
神崎	11		8	3
田辺	20		18	2

浜田湊 清水家客船帳 (舞鶴市史)

	入港数	1744～1800	1801～1867	1868～
間人	78	6	106以上	19
岩滝	47		54	13
加悦	18			30
宮津	21		20	4
由良	93	2以上	118以上	29
神崎	69	3	45以上	122
田辺	19		16	8

出雲崎湊には嘉永五年、六年と記載されている、祈禱札がある嘉永三年は出雲崎、石州浜田湊のどちらにも記載されていない。小室文蔵家と兄弟だと云われている小室末蔵家、小室和助家それぞれ出雲崎客船帳には入港記載がないが、浜田清水家客船帳には、和助家も船主は違



石州浜田(鳥根県)の清水家客船帳、出雲崎客船帳に記載されている廻船を見ると間人・岩滝はどちらにおいても入港数が多く記載されている。岩滝は多く、他地区宮津、田辺等も傾向は同じであるが、由良、神崎の寄港数はかなり少ない。小室文蔵家は石州浜田(鳥根県)の清水家客船帳には、山形屋の船頭として、出雲崎客船帳には船主のように記載されている。由良北前船資料館に小室文蔵家より寄託展示されている讃岐の金毘羅神社の祈禱札嘉永三年(一八五〇)、がある。

が、印は山形屋と同じのため船主は同系列と思われる。

末蔵家

岩滝・山家屋・福寿丸

安政四年(一八五七)八月十九日登り

文久二年(一八六二)六月晦日登り

明治二十年(一八八七)九月六日登り

和助家

由良・

小堀屋・幸宝丸

文化八年(一八一二)九月朔日下り

九年(一八一三)六月四日登り

古村屋・幸宝丸

文政十年(一八二七)七月二九日庄内登り

文蔵家・岩滝・能勢丸

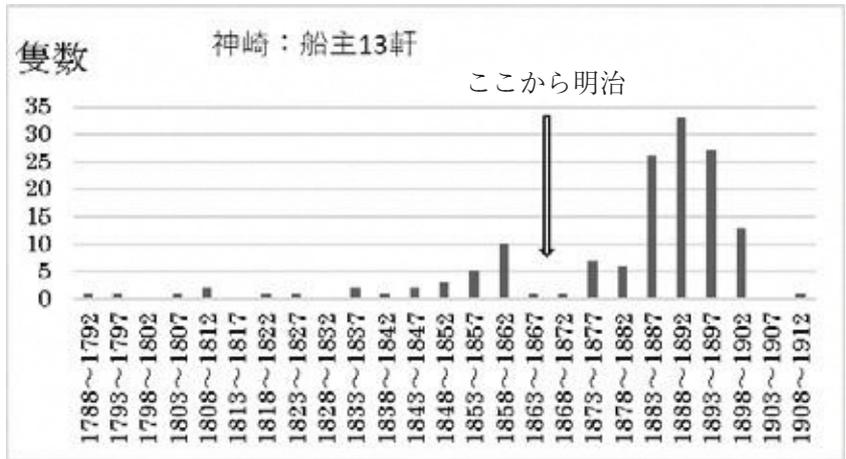
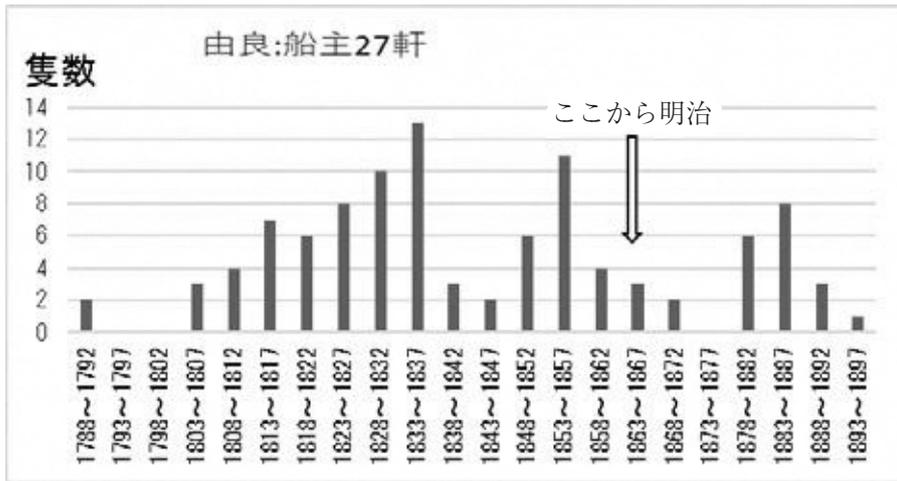
文久四年(一八六四)四月二六日登り

出雲崎客船帳、嘉永五年(一八五三)三月六日 嘉永六年(一八五四)三月二十七日この一族

の記録からもある課題が浮かぶ。

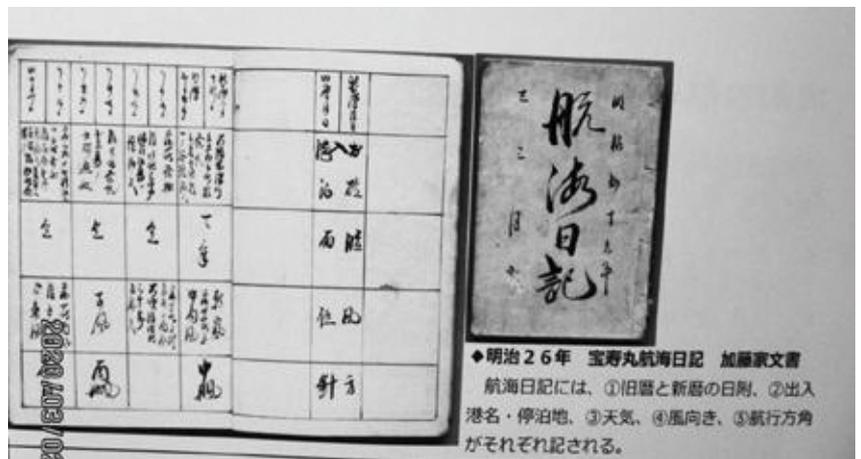
次号に

公民館だより前号(第一七一
号)に浜田湊清水家客船帳の由
良、神崎の寄港数について述べ
たが、傾向をグラフにしてみた。
(注) 縦軸スケール違う



(注) 縦軸スケールが異なる
前記表でもわかるが表を見る
と明らかな傾向が見て取れる。
神崎は明治に急速に寄港数が増
している。このことについて前
号にも述べたが、その一部の資
料が下記である。

明治26年	寄港地	船名	船主
1月	小樽	宝寿丸	加藤家
2月	小樽	宝寿丸	加藤家
3月	小樽	宝寿丸	加藤家
4月	小樽	宝寿丸	加藤家
5月	小樽	宝寿丸	加藤家
6月	小樽	宝寿丸	加藤家
7月	小樽	宝寿丸	加藤家
8月	小樽	宝寿丸	加藤家
9月	小樽	宝寿丸	加藤家
10月	小樽	宝寿丸	加藤家
11月	小樽	宝寿丸	加藤家
12月	小樽	宝寿丸	加藤家



前記図右(加藤家文書)を読み
解いた左図(府立丹後資料館
吉野健一著)資料によると九月
一〇日小樽港を出発一七日隠岐
西郷港へ停泊と記され、(前公
民館だより)に書いた酒田よりは
小樽からの誤りでした。)之か
ら解るように明治時代にはどこ
にも寄らず一気に南下している
ことが多くあったと想定される。
詳細な分析は次号にしたい。



短歌

柘本 清

月澄みぬみかんの花の香ほんのりと

秋の実りぞ待たるる今宵

青い空若葉の里山白い波

荒ぶることなく由良川悠々

時は経ぬ今も持らたい人生に

北前船の気骨刻もう

由良と言う大きな船に乗組んで

北前船の気骨「宣候」

気骨||信念を貫こうとする強い心
宣候||船長の命じた針路と舵取る人が復唱する航海用語

青田風マスク外して深呼吸

虚空蔵見上げて朝の体操

短歌

藤本 史代

「春の楽章」

雪の上に木立の影はやわらかし

光は春へ境界を解く

早春の水はまばゆし命持つ

耀き放ら海へ加速す

ゆるやかに春の航路を開きゆき

海はふくらむ未知なる明日に

希望とう吃水線を光らせて

春の岬へ指して航く船

水光り川面は小波さざめきて

今し始まる春の楽章

死後の生命は存在するのか??

高橋 洋 二

人間にとって永遠の課題である死後の生命は本当に存在するのか? 私共人生における最大級の関心事、課題について、ある月刊誌記事の一部を紹介させて頂きます。

「現代人は、死と共に生命が消滅することを自明の理のように思いがちだが、これ程大きな錯覚もないでしょう。」或る世界的に著名な、仏道実践者は、「水」が蒸発し、「水蒸気」になる例を引いて、仏法に於ける生命観を語ります。現代の人々は、空に浮かぶ雲も、降り注ぐ雨も、水蒸気も、同じ「H2O」だということを知っている。水を「生の姿」、水蒸気を「死の姿」と考えると、「ぶちらもH2Oです。それであ

りながら、液体と気体の区別はある。私たちの生命も、その本性を保ったままで、生と死の二つの相をしめすのです。しかも、水の循環のように、生と死を繰り返し続けるのだというふうには考えられないだろうか」

「法華経の知恵」で三世(さんぜ) (過去世、現世、未来世)の生命観を論じた際は、有名な「パスカルの賭け」を紹介している。

パスカルは十七世紀フランスの科学者、宗教思想家の話です。彼曰く「もし、人が死後の生命がある方に賭けて生き、死んだとする。その結果賭けに負けた、即ち実はそれが存在しなかったとする。そ

れでも「あなたは何も損をしないではないか」。

一方、「死後の生命は無い」方に賭けて生き、死んだとする。それでもし、死後の生命が実在したら、もう取り返しがつかない。生きている間に善行を積んで、死後に備えればよかったと思っても、もう間に合わない。

だから、死後を信じる方に賭ければ、賭けに勝てば幸福だし、負けても何も失わない。反対の方に賭けて、賭けに負ければ、取り返しがつかないと。こう冷静に考えれば、死後の生命を信じる方に賭けることは、つまり宗教を受け入れることは、極めて「合理的な選択」であり、理性的な人ならば、これ以外の選択はないという理論です。

異論もあるかもしれないが、

私はパスカルの理論には今でも説得力があると思っ

「と、(法華経の知恵)より。いかがでしたでしょうか? もし、ご関心が、おありでしたら、次回には、仏法の観点から、生命が物事を認識する働きである意識を九種に分類した「九識論」を通じより具体的に生命の永遠性に迫ってまいりたく思います。...



由良川の朝霧

お世話になった相談役・顧問様 その3

宮津市老連理事 由良松寿会 岸田 博司

由良松寿会顧問依頼者、受諾者一覧表(H26.4.1～H27.4.1)

NO	役職名	氏名	委任状番号	委任年月日
61	由良港自治会 会長	川崎 清	由良松寿会顧問委第 61 号	平成 26 年 4 月 1 日
62	下石浦自治会 会長	岸田 剛	由良松寿会顧問委第 62 号	平成 26 年 4 月 1 日
63	上石浦自治会 会長	山下 良一	由良松寿会顧問委第 63 号	平成 26 年 4 月 1 日
64	由良実業界 会長	岡本 康一	由良松寿会顧問委第 64 号	平成 26 年 4 月 1 日
65	由良地区民生委員 常務	小野原 道子	由良松寿会顧問委第 65 号	平成 26 年 4 月 1 日
66	由良地区宮本民生委員	新宮 通生	由良松寿会顧問委第 66 号	平成 26 年 4 月 1 日
67	由良地区浜野路民生委員	岡田 たつ子	由良松寿会顧問委第 67 号	平成 26 年 4 月 1 日
68	由良地区港民生委員	川崎 智子	由良松寿会顧問委第 68 号	平成 26 年 4 月 1 日
69	由良地区石浦民生委員	山下 よし子	由良松寿会顧問委第 69 号	平成 26 年 4 月 1 日
70	由良脇自治会 会長	竺原 正和	由良松寿会顧問委第 70 号	平成 27 年 4 月 1 日
71	由良宮本自治会 会長	竹田 茂	由良松寿会顧問委第 71 号	平成 27 年 4 月 1 日
72	由良浜野路自治会 会長	岸田 国彦	由良松寿会顧問委第 72 号	平成 27 年 4 月 1 日
73	由良港自治会 会長	山田 訓久	由良松寿会顧問委第 73 号	平成 27 年 4 月 1 日
74	下石浦自治会 会長	野村 正和	由良松寿会顧問委第 74 号	平成 27 年 4 月 1 日
由良松寿会顧問依頼者一覧表 欠番号(第 4 号、第 9 号、第 14 号、第 49 号以上)				

前記 74 名の方々には、長期にわたり由良松寿会顧問として、ご支援ご協力を頂き

有り難うございました。今後とも宜しくご指導ご鞭撻をお願いもうしあげます。謹言

宮津市老連理事 岸田 博司 平成 27 年 4 月 1 日

訂正とお詫び

公民館だより 171 号
14 ページ 下から 9 段目
梅田浩一様を間違っって楠田浩一様と
表記していました。
訂正してお詫びいたします。



はまの子体育館横のさつき

令和2年度 宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

「勇気を出して 伝え合おう あなたの思い 私の思い」 (小学4年生)

「持ちたいな 止める勇気に 言う勇気」 (小学5年生)

「きより保ち 心はあなたに 寄りそって」 (小学6年生)

編集後記

4月から班長を拝任した私は、
過日「お大師さんの道づくり」
という行事に初めて参加して、
自分が住んでいる由良の歴史に
ついて大いに好奇心をくすぐら
れた。

というのも、如意寺所有の山
林に小道が巡らされており、番
号が刻まれたいくつもの石仏が
東山、西山に分けて祀ってある。
聞けば、四国八十八箇所を模し
ており、巡礼すれば同じ御利益
が得られるという。

如意寺に興味を持った私は自
宅に帰ってから、「由良の歴史
をさぐる会」のメンバーだった
義父が残した資料を見て驚いた。
聖徳太子の異母弟にあたる麻呂
子親王が、推古二十三年（61
5年）に建立したという伝承で
ある。とすれば余っ程古い、飛
鳥時代の古刹だ。

寺にまつわる説話にも、さら
に興味をそそられた。祀られて
いる地藏菩薩像は仏師快慶の作
で、像に残る焼痕は安寿と厨子
王が山椒大夫の元から逃れよう
として失敗し、罰として焼火箸
を当てられたのを、この地藏が
代わって受けたという言い伝え
である。それで「身代わり地藏」
と呼ばれ、古より人々の信仰を
集めたところだ。

また、かつて如意寺は密教修
験の拠点として知られ、修行の
場は由良ヶ岳だった。地域の習
俗で十三歳の春に麓から力石を
持って山に登り、山頂に石を置
いてくると一人前の若衆として
仲間入りが認められる「十三詣
り」のしきたりがあり、それが
転化して東の青葉山と互いに聖
なる山としての高さを競う「山
の背比べ」の話となったとある。
実にユニークだ。「身代わり
地藏」も「山の背比べ」も、心

を惹かれるものがあり、永く語
り継がれて来たことに納得がい
く。

「お大師さんの道づくり」の
作業は、道にある落ち葉や倒木
の処理、石仏の立て直しなど。
私たち浜野路地区は東山を担当
した。順路は登り下りと少し陰
しい所もあり、メタボな私には
ちょうど良い運動となった。健
康保持と心の安らぎの現世利益
を求めて、次はフルコースを巡
礼し、お遍路してみようと思っ
つ。

文化部長 前田

